



## Cisco HyperFlex Smart Call Home クイック スタート ガイド

初版：2018年5月17日

最終更新：2020年8月4日

### シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（ [www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) ）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NON-INFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at [www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices).

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on standards documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2018–2020 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 通信、サービス、偏向のない言語、およびその他の情報

---

- シスコからタイムリーな関連情報を受け取るには、[Cisco Profile Manager](#) でサインアップしてください。
- 重要な技術によりビジネスに必要な影響を与えるには、[シスコサービス](#)にアクセスしてください。
- サービスリクエストを送信するには、[Cisco Support](#) にアクセスしてください。
- 安全で検証済みのエンタープライズクラスのアプリケーション、製品、ソリューション、およびサービスを探して参照するには、[Cisco Marketplace](#) にアクセスしてください。
- 一般的なネットワーキング、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、[Cisco Press](#) にアクセスしてください。
- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、[Cisco Warranty Finder](#) にアクセスしてください。

### マニュアルに関するフィードバック

シスコのテクニカルドキュメントに関するフィードバックを提供するには、それぞれのオンラインドキュメントの右側のペインにあるフィードバックフォームを使用してください。

### Cisco バグ検索ツール

[Cisco バグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理する Cisco バグ追跡システムへのゲートウェイとして機能する、Web ベースのツールです。BST は、製品とソフトウェアの問題に関する詳細な情報を提供します。

### 偏向のない言語

この製品のマニュアルセットは、偏向のない言語を使用するように配慮されています。このドキュメントセットでの偏向のない言語とは、年齢、障害、性別、人種的アイデンティティ、民族的アイデンティティ、性的指向、社会経済的地位、およびインターセクショナルリティに基づく差別を意味しない言語として定義されています。製品ソフトウェアのユーザーインターフェ

イスにハードコードされている言語、基準ドキュメントに基づいて使用されている言語、または参照されているサードパーティ製品で使用されている言語によりドキュメントに例外が存在する場合があります。



# 第 1 章

## HyperFlex の自動サポートと Smart Call Home

この章では、Cisco Hyperflex システムの自動サポートと Smart Call Home の情報を提供します。

- [HyperFlex の自動サポートと Smart Call Home \(1 ページ\)](#)

## HyperFlex の自動サポートと Smart Call Home

HX ストレージクラスタを構成して、文書化されたイベントに関する自動化された電子メール通知を送信することができます。通知内の収集されたデータを使用して、HX ストレージクラスタの問題のトラブルシューティングに役立てることができます。



- (注) Auto Support (ASUP) および Smart Call Home (SCH) は、プロキシサーバの使用をサポートしています。プロキシサーバの使用を有効にし、HX Connect を使用して、両方のプロキシ設定を構成できます。

### Auto Support (ASUP)

Auto Support は、HX Data Platform を通じて提供されるアラート通知サービスです。Auto Support を有効にすると、HX Data Platform から、指定されたメールアドレスまたは通知を受信したい電子メールエイリアスに通知が送信されます。通常、Auto Support は、HX ストレージクラスタの作成時に、SMTP メールサーバを設定し、電子メールの受信者を追加して設定します。



- (注) 未認証の SMTP のみが ASUP のサポート対象となります。

構成中に **[Enable Auto Support (Auto Support を有効にする)]** チェックボックスが選択されていない場合、次の方法を使用して Auto Support をクラスタの作成後に有効にすることができます。

クラスタ作成後の ASUP 構成方法	関連トピック
HX Connect ユーザ インターフェイス	<a href="#">HX Connect を使用した自動サポートの設定 (3 ページ)</a>
コマンドライン インターフェイス (CLI)	<a href="#">CLI を使用した通知設定の構成 (4 ページ)</a>
REST API	Cisco HyperFlex は <a href="#">Cisco DevNet</a> での REST API をサポートします。

Auto Support は、監視ツールに HX ストレージ クラスタを接続するためにも使用できます。

### Smart Call Home (SCH)

Smart Call Home は、HX ストレージ クラスタを監視し、ビジネスの運営に影響をおよぼす前に問題にフラグ付けして解決を開始する、自動化されたサポート機能です。これにより高いネットワーク 可用性と運用効率の向上をもたらします。

Call Home は、さまざまな障害や重要なシステム イベントを検出してユーザに通知する、Cisco デバイスのオペレーティング システムに埋め込まれている製品機能です。Smart Call Home は、基本的な Call Home 機能を強化するための自動化と便利な機能を追加します。Smart Call Home を有効にすると、Call Home のメッセージとアラートは Smart Call Home に送信されます。

Smart Call Home は Cisco の多くのサービス契約に含まれており、次が含まれます。

- 自動化された、24 時間の機器監視、プロアクティブな診断、リアルタイムの電子メールアラート、サービス チケットの通知、および修復の推奨。
- Call Home 診断とインベントリ アラームをキャプチャおよび処理することにより指定された連絡先に送信される、プロアクティブなメッセージング。これらの電子メールメッセージには、自動的に作成された場合に Smart Call Home ポータルと TAC ケースへのリンクが含まれています。
- Cisco Technical Assistance Center (TAC) による優先サポート。Smart Call Home では、アラートが十分に重大な場合、TAC ケースが自動的に生成され、デバッグおよび他の CLI 出力が添付されて、https 経由で適切なサポート チームにルーティングされます。
- カスタマイズ可能なステータス レポートおよびパフォーマンス分析。
- 次に対する Web ベースのアクセス 1 箇所における修復のためのすべての Call Home メッセージ、診断、および推奨、TAC ケースのステータス、すべての Call Home デバイスの最新のインベントリおよび構成情報。

HX ストレージ クラスタ、ユーザ、サポートの間で自動的に通信が行われるように設定する方法については、[データ収集用の Smart Call Home の設定 \(7 ページ\)](#) を参照してください。



## 第 2 章

# HyperFlex の自動サポートと Smart Call Home の構成

この章では、Cisco Hyperflex システムの自動サポートと Smart Call Home の情報を提供します。

- [HX Connect を使用した自動サポートの設定 \(3 ページ\)](#)
- [CLI を使用した通知設定の構成 \(4 ページ\)](#)

## HX Connect を使用した自動サポートの設定

一般に、Auto Support (ASUP) は HX ストレージクラスタの作成中に設定されます。設定されなかった場合は、クラスタ作成後に HX Connect ユーザ インターフェイスを使用して有効にすることができます。

**ステップ 1** HX Connect にログインします。

**ステップ 2** バナーで、[設定の編集 (Edit settings)] (歯車アイコン) > [自動サポートの設定 (Auto Support Settings)] をクリックして、次のフィールドに値を入力します。

UI 要素	基本的な情報
[自動サポートの有効化 (推奨) (Enable Auto Support (Recommended))] チェックボックス	以下を有効にすることにより、この HX ストレージクラスタの Call Home を設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Cisco TAC への分析用データの配信。</li><li>• プロアクティブ サポートの一環としてのサポートからの通知。</li></ul>
[サービスチケット通知の送信先 (Send service ticket Notifications to)] フィールド	通知を受信する電子メール アドレスを入力します。
[Terms and Conditions (使用条件)] チェック ボックス	エンドユーザー使用契約。自動サポート機能を使用するには、このチェック ボックスをオンにする必要があります。

## CLI を使用した通知設定の構成

UI 要素	基本的な情報
[プロキシサーバを使用 (Use Proxy Server) ] チェックボックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Web プロキシサーバ URL</li> <li>• [ポート (Port) ]</li> <li>• ユーザー名 (Username)</li> <li>• パスワード</li> </ul>

ステップ 3 [OK] をクリックします。

ステップ 4 パナーで、[設定の編集 (Edit settings) ] (歯車アイコン) > [通知の設定 (Notifications Settings) ] をクリックして、次のフィールドに値を入力します。

UI 要素	基本的な情報
[電子メール通知によるアラームの送信 (Send email notifications for alarms) ] チェックボックス	<p>オンにした場合は、次のフィールドに値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• メールサーバアドレス</li> <li>• 送信元アドレス (From Address) : サポート サービス チケットで HX ストレージクラスタを特定するために使われる電子メールアドレスを、自動サポート通知の送信者として入力します。現在、この電子メールアドレスにはサポート情報が送信されません。</li> <li>• 受信者リスト(カンマ区切り)</li> </ul>

ステップ 5 [OK] をクリックします。

## CLI を使用した通知設定の構成

HX ストレージクラスタからアラーム通知を受信する設定を構成および検証するには、次の手順に従います。



(注) 未認証の SMTP のみが ASUP のサポート対象となります。

ステップ 1 ssh を使用して HX ストレージクラスタ内のストレージコントローラ VM にログインします。

ステップ 2 SMTP メールサーバを設定し、設定を確認します。

指定された受信者に電子メール通知を送信するために SMTP メールサーバで使用される電子メールアドレスです。

構文 : `stcli services smtp set [-h] --smtp SMTPSERVER --fromaddress FROMADDRESS`



例 :

```
# stcli services smtp set --smtp mailhost.eng.mycompany.com --fromaddress smtpnotice@mycompany.com
# stcli services smtp show
```

**ステップ 3** ASUP 通知を有効にします。

```
# stcli services asup enable
```

**ステップ 4** 受信者の電子メールアドレスを追加して、設定を確認します。

電子メール通知を受信する一連の電子メールアドレスまたは電子メールエイリアスのリストです。複数の電子メールはスペースで区切ります。

構文 : `stcli services asup recipients add --recipients RECIPIENTS`

例 :

```
# stcli services asup recipients add --recipients user1@mycompany.com user2@mycompany.com
# stcli services asup show
```

**ステップ 5** HX ストレージクラスタの eth1:0 IP アドレスを所有しているコントローラ VM から、電子メールでテスト ASUP 通知を送信します。

```
# sendasup -t
```

eth1:0 IP アドレスを所有しているノードを判別するには、ssh を使用して HX ストレージクラスタの各ストレージコントローラ VM にログインし、ifconfig コマンドを実行します。他のノードから sendasup コマンドを実行しても、出力は何も返されず、受信者はテストを受信しません。

**ステップ 6** すべてのストレージコントローラ VM の IP アドレスから電子メールを送信できるように電子メールサーバを設定します。

---





## 第 3 章

# HX Smart Call Home データ コレクションの構成

この章では、Cisco Hyperflex システムの Smart Call Home データ コレクションの設定方法について説明します。

- [データ収集用の Smart Call Home の設定 \(7 ページ\)](#)

## データ収集用の Smart Call Home の設定

データ コレクションはデフォルトで有効にされますが、インストール時にオプトアウト（無効化）することができます。クラスタ作成後のデータ コレクションを有効にすることもできます。アップグレード中、Smart Call Home の有効化はレガシー構成によって決まります。たとえば、`stcli services asup show` を有効にすると、アップグレード時に Smart Call Home が有効になります。

HX ストレージクラスタに関するデータ コレクションは、https を介して Cisco TAC に転送されます。インストールされているファイアウォールがある場合、Smart Call Home のプロキシサーバの構成は、クラスタ作成の後に完了します。



- (注) HX クラスタからの発信接続がプロキシサーバを通過する必要がある展開では、Smart Call Home はプロキシサーバの使用をサポートしていません。



- (注) HyperFlex Data Platform リリース 2.5(1.a) では、Smart Call Home Service Request (SR) の生成でプロキシサーバは使用されません。

Smart Call Home を使用するには、次のものがが必要です。

- 対応する Cisco Unified Computing Support Service 契約または Cisco Unified Computing Mission Critical Support Service 契約と関連付けられた Cisco.com ID。

- 登録されるデバイス用の Cisco Unified Computing Support Service または Cisco Unified Computing Mission Critical Support Service

**ステップ1** HX ストレージクラスタ内のストレージコントローラ VM にログインします。

**ステップ2** HX ストレージクラスタをサポートに登録します。

HX ストレージクラスタに登録すると、収集されたデータに ID を追加し、Smart Call Home を自動的に有効にします。HX ストレージクラスタに登録するには、電子メールアドレスを指定する必要があります。登録後、問題が発生して TAC サービス要求が生成されるたびに、このメールアドレスはサポート通知を受け取ります。

構文：

```
stcli services sch set [-h] --email EMAILADDRESS
```

例：

```
# stcli services sch set --email name@company.com
```

**ステップ3** HX ストレージクラスタからサポートへのデータフローが機能していることを確認します。

データフローが機能していれば、問題が発生した場合にサポートがそれをトラブルシューティングするうえで役立つ関連情報が確実に得られます。

(注) TAC に連絡して接続を確認してください。

```
# asupcli [--all] ping
```

--all オプションは、HX クラスタ内のすべてのノード上でコマンドを実行します。

**ステップ4** (省略可能) ポート 443 を介した Smart Call Home のアクセスを有効にするためにプロキシサーバを設定します。

クラスタの作成後、HX ストレージクラスタがファイアウォールの背後にある場合は、Smart Call Home プロキシサーバを構成する必要があります。サポートは、url: <https://diag.hyperflex.io:443> エンドポイントでデータを収集します。

1. 既存の登録メールとプロキシ設定をすべてクリアします。

```
# stcli services sch clear
```

2. プロキシと登録メールを設定します。

構文：

```
stcli services sch set [-h] --email EMAILADDRESS [--proxy-url PROXYURL] [--proxy-port PROXYPORT]
[--proxy-user PROXYUSER] [--portal-url PORTALURL] [--enable-proxy ENABLEPROXY]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--email EMAILADDRESS</b>	必須。	シスコ サポートから電子メールを受信するユーザのために、電子メールアドレスを追加します。配信リストまたはエイリアスを使用することをお勧めします。
	<b>--enable-proxy ENABLEPROXY</b>	オプション。	プロキシの使用を明示的に有効または無効にします。
	<b>--portal-url PORTALURL</b>	オプション。	代替の Smart Call Home ポータル URL を指定します (該当する場合)。
	<b>--proxy-url PROXYURL</b>	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシの URL を指定します (該当する場合)。
	<b>--proxy-port PROXYPORT</b>	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシのポートを指定します (該当する場合)。
	<b>--proxy-user PROXYUSER</b>	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシの URL を指定します (該当する場合)。  HTTP または HTTPS プロキシのパスワードを指定します (メッセージが表示される場合)。

例 :

```
# stcli services sch set
  --email name@company.com
  --proxy-url www.company.com
  --proxy-port 443
  --proxy-user admin
  --proxy-password adminpassword
```

3. プロキシサーバが動作していること、および HX ストレージクラスタからサポート ロケーションにデータが流れることを確認するために ping を送信します。

(注) TAC に連絡して接続を確認してください。

```
# asupcli [--all] ping
```

--all オプションは、HX クラスタ内のすべてのノード上でコマンドを実行します。

**ステップ 5** Smart Call Home が有効になっていることを確認します。

Smart Call Home 構成が設定されると、自動的に有効になります。

```
# stcli services sch show
```

**ステップ 6** 自動サポート (ASUP) 通知を有効にします。

一般に、Auto Support (ASUP) は HX ストレージ クラスタの作成中に設定されます。設定されなかった場合、HX Connect または CLI を使用してクラスタ作成後の設定を有効にすることができます。

Smart Call Home が無効になっている場合は、手動で有効にします。

```
# stcli services sch enable
```

---



## 第 4 章

# HyperFlex Smart Call Home CLI コマンド

この章では、HyperFlex Smart Call Home CLI コマンドに関する参照情報を提供します。

- [stcli services sch コマンド \(11 ページ\)](#)
- [stcli services sch clear コマンド \(12 ページ\)](#)
- [stcli services sch disable コマンド \(12 ページ\)](#)
- [stcli services sch enable コマンド \(13 ページ\)](#)
- [stcli services sch ping コマンド \(13 ページ\)](#)
- [stcli services sch set コマンド \(13 ページ\)](#)
- [stcli services sch show コマンド \(14 ページ\)](#)

## stcli services sch コマンド

このセクションでは、Cisco Smart Call Home (SCH) コマンドをリストし、説明します。Smart Call Home は、HX ストレージクラスタに関する継続的なモニタ、プロアクティブな診断、アラート、サービス チケット通知、および推奨する改善策を指定の ASUP カスタマー コンタクトに提供します。また、必要に応じて、HTTPS やプロキシサーバを介して情報を提供することもできます。



(注) HX ストレージクラスタがファイアウォールの背後にある場合、アクセスするにはプロキシサーバが必要です。

**stcli services** は、HTTPプロキシとHTTPSプロキシの両方をサポートします。

**stcli services sch [-h] {enable | disable | show | ping | clear | set}**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>clear</b>	いずれか 1 つが必須。	Smart Call Home 設定をクリアします。
<b>disable</b>	いずれか 1 つが必須。	Smart Call Home を無効にします。

Option	必須またはオプション	説明
<b>enable</b>	いずれか1つが必須。	Smart Call Home を有効にします。
<b>ping</b>	いずれか1つが必須。	Smart Call Home エンドポイントに ping します。
<b>set</b>	いずれか1つが必須。	HTTPS アクセス用のプロキシサーバを含め、Smart Call Home を登録するためのコマンド
<b>show</b>	いずれか1つが必須。	Smart Call Home 設定を表示します。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** `stcli services sch` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services sch clear コマンド

ストレージクラスタ設定から Smart Call Home メールおよびプロキシ設定を削除します。

**stcli services sch clear [-h]**

**コマンド デフォルト** 他にオプションはありません。

**使用上のガイドライン** `stcli services sch clear` コマンドは、ストレージクラスタ設定から Smart Call Home 通知メールおよびプロキシ設定を削除するために実行します。

```
# stcli services sch clear
```

## stcli services sch disable コマンド

HX Smart Call Home を無効にします。

**stcli services sch disable [-h]**

**コマンド デフォルト** 他にオプションはありません。

**使用上のガイドライン** `stcli services sch disable` コマンドを実行します。

```
# stcli services sch disable
```



## stcli services sch enable コマンド

HX Smart Call Home を有効にします。通知メールアドレスを設定するには、「`stcli services sch set`」を参照してください。

**stcli services sch enable [-h]**

---

コマンドデフォルト 他にオプションはありません。

---

使用上のガイドライン `stcli services sch enable` コマンドを実行します。

```
# stcli services sch enable
```

## stcli services sch ping コマンド

Smart Call Home エンドポイントに ping します。

**stcli services sch ping [-h]**

---

コマンドデフォルト オプションはありません。

---

使用上のガイドライン `stcli services sch ping` コマンドを実行します。

次に例を示します。

```
# stcli services sch ping
ping to callhome endpoint was successful
```

## stcli services sch set コマンド

Smart Call Home サービスに必要な連絡先とプロキシサーバを設定します。



---

**重要** 入力を求められたら `password` を入力してください。

`stcli services` は、HTTPプロキシとHTTPSプロキシの両方をサポートします。

---

**stcli services sch set [-h] --email EMAILADDRESS [--proxy-url PROXYURL] [--proxy-port PROXYPORT] [--proxy-user PROXYUSER] [--portal-url PORTALURL] [--enable-proxy ENABLEPROXY]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--email EMAILADDRESS</b>	必須。	シスコ サポートから電子メールを受信するユーザのために、電子メールアドレスを追加します。配信リストまたはエイリアスを使用することをお勧めします。
	<b>--enable-proxy ENABLEPROXY</b>	オプション。	プロキシの使用を明示的に有効または無効にします。
	<b>--portal-url PORTALURL</b>	オプション。	代替の Smart Call Home ポータル URL を指定します (該当する場合)。
	<b>--proxy-url PROXYURL</b>	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシの URL を指定します (該当する場合)。
	<b>--proxy-port PROXYPORT</b>	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシのポートを指定します (該当する場合)。
	<b>--proxy-user PROXYUSER</b>	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシの URL を指定します (該当する場合)。  HTTP または HTTPS プロキシのパスワードを指定します (メッセージが表示される場合)。

**コマンド デフォルト** なし。電子メールアドレスは必須です。デフォルトで、プロキシ サーバは設定されません。

**使用上のガイドライン** `stcli services sch set` コマンドに電子メール受信者のアドレスを含めます。HX ストレージ クラスタがファイアウォールの背後にある場合は、プロキシ サーバを設定します。

Smart Call Home サービスを使用するには、このサービスが有効になっていることを確認します。`stcli services sch show` コマンドと `stcli services sch enable` コマンドを参照してください。

```
# stcli services sch set --email alias@mycompany.com
```

## stcli services sch show コマンド

Smart Call Home 設定を表示します。これには設定した通知メールとプロキシの設定が含まれ、さらに Smart Call Home は有効か無効かが示されます。

**stcli services sch show [-h]**

**コマンド デフォルト** 他に指定できるオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli services sch show コマンドは、適用されている Smart Call Home 設定をリストするために実行します。

この応答例では、Smart Call Home は有効になっているものの、電子メールアドレスとプロキシ設定は設定されていないことを示しています。

```
# stcli services sch show

proxyPort: 0
proxyUser:
enabled: True
proxyPassword:
cloudEnvironment: production
proxyUrl:
emailAddress:
portalUrl:
cloudAsupEndpoint: https://diag-hyperflex.io/
```

stcli services sch show コマンド

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。